



循環型社会の今をデザインとアートで体験する企画展

「サーキュラーシティ丸の内 ゴミ＝資源 循環のデザイン」

8/19(金)より9/20(火)までGOOD DESIGN Marunouchiにて開催

「東京フォトグラフィックリサーチ (TPR) 」による作品も展示



公益財団法人日本デザイン振興会（会長：内藤廣）が運営するギャラリースペースGOOD DESIGN Marunouchi（千代田区丸の内）は、丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）を舞台にした循環型社会への取り組みをデザインとアートを通じて紹介する企画展「サーキュラーシティ丸の内 ゴミ＝資源循環のデザイン」を8月19日（金）より9月20日（火）まで開催します。

資源から原材料を作り、さまざまな工程を経て作られたプロダクトを消費者の元に届ける一連の流れ「サプライチェーン」。多くの大企業が本社を置き、日本の経済を支える街のひとつ、丸の内エリアでは、「ゴミ＝資源」を川上とするもう一つのサプライチェーンをデザインする「サーキュラーシティ丸の内」に取り組み、人やモノをつなげることで、街に新たな持続可能な資源循環を生み出しています。

本展では、身の回りや社会の課題に対しデザインがどんな未来を描けるのかを考え、実践する場であるGOOD DESIGN Marunouchiが、街のデザインハブとして活動する丸の内エリアで取り組まれている8つの事例を可視化することを通して、「ゴミ＝資源」の循環デザインを探ります。また、アーティストの目線から有楽町の風景を捉え直す「有楽町アートサイトプロジェクト」に取り組んできた「東京フォトグラフィックリサーチ (TPR) 」は、「ごみ」と「資源」の分水嶺に新たな視点をもたらす写真とサウンド作品を展示します。

アートとデザイン双方のアプローチで紐解く、「ゴミ＝資源」のリアルと循環デザインをご体感ください。

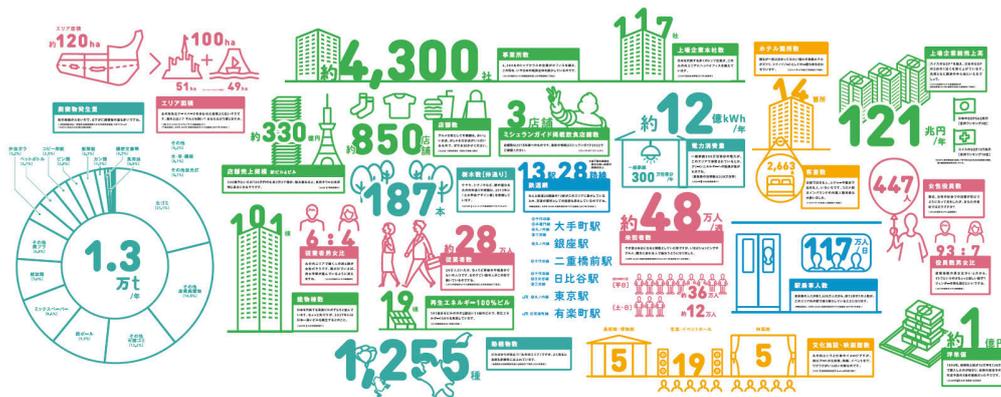
開催概要

展覧会名： サークュラーシティ丸の内 ゴミ＝資源 循環のデザイン
会期： 2022年8月19日（金） - 9月20日（火） *会期中無休
会場： GOOD DESIGN Marunouchi 住所／東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル1F
アクセス／<https://www.g-mark.org/gdm/access.html>

開場時間： 11時 - 20時 *入場無料
企画・主催： 公益財団法人日本デザイン振興会
協力： 三菱地所株式会社
アート協賛： 大丸有SDGs ACT5実行委員会
アート展示： TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH PROJECT
取材協力： AIPA株式会社、市川環境エンジニアリング株式会社、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会、株式会社春江、三菱地所株式会社 エコファニ、三菱地所プロパティマネジメント株式会社、株式会社Nature Innovation Group アイカサ
アートディレクション・デザイン： 廣村正彰
コピー： 蓑田雅之
映像・編集： 垂見幸哉

展示概要

1. 「サーキュラーシティ丸の内」とは
2. そもそも「丸の内」ってどんな街？
人と経済を中心としたさまざまなデータをインフォグラフィックスで表現し、日本の経済を支える街・丸の内エリアの社会生態を紐解きます。



3. 「丸の内」を「まわるのうち」にする／上質な「ゴミ＝資源」を生み出すデザイン
街の営みのなかで生まれている「ゴミ＝資源」の循環を可視化。18分類されている廃棄物の2021年度の廃棄量と再生量を見える化し、その現場を映像で紹介します。
4. 循環のデザイン：8つの事例

丸の内エリアで実際に取り組む8つの実例をモノの展示やグラフィックを通して紹介します。

紹介事例

高濃度ニーディング法を用いた無塩素DIP（脱墨）システム／株式会社春江東京リサイクルセンター／RPF(Refuse derived paper and plastics densified Fuel)／バナーフラッグアップサイクル／ボトルtoボトル／エコファニ／アイカサ／MARUNOUCHI TO GO プロジェクト



<写真・サウンド作品>

タイトル：「FOCUS ON CYCLE」（2022）

アート制作：東京フォトグラフィックリサーチ（小山泰介／梅沢英樹／山本華）

ごみという「状態」は、扱う人、つまりそれを見定める人の視点によって意味が変わる、その曖昧さにこそ、循環することの面白さや、循環型社会を達成していく可能性がある。東京フォトグラフィックリサーチは今回、リサイクルセンターを満たすダイナミックな動きや強烈なディテールをモチーフに、写真と音の表現を通じて、ゴミと資源の分水嶺に新たな視点をもたらします。

東京フォトグラフィックリサーチ | TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH プロフィール

<https://www.tokyophotographicresearch.jp>

東京フォトグラフィックリサーチは、2020年代を迎えた東京を出発点として、「都市の多角的なリサーチ」と「現代写真の実践的な探求」をコンセプトに、未だ見ぬ都市と社会と人びとの姿を可視化することを目的としたアーティスト・コレクティブ。写真家、美術家、メディア・アーティスト、音楽家、建築家、研究者、グラフィックデザイナー、編集者など、広く写真表現に携わる者達との協働によって、アートプロジェクトや展覧会、フィールドリサーチ、コミッションワーク、コラボレーション、国内外の美術大学との共同プログラムなど、多様な活動を展開している。

メッセージ

そのままなら「ゴミ」となる廃棄物を「資源」として循環させるこの様々な取り組みは、三菱地所株式会社が主となり協力企業、店舗、団体によって行われている。そのひとつひとつは、1枚の紙にラミネートがついているか否かでの分別や、生ゴミには紙ナプキンを混ぜないとか、丁寧に洗浄すれば別な物がつくれる、もう一度使えるなど、日本経済を支える街の顔からは想像がつかない小さな手間と創意工夫の積み重ねから成っている。経済の営みと併走するデザインの視点からもこの循環に着目し、学びたい。

廣村正彰

「サーキュラーシティ丸の内」について

「循環経済（サーキュラーエコノミー）」とは、資源を循環利用し続けながら、新たな付加価値を生み出し続けようとする経済社会システムのこと。大量生産・大量消費を前提し、資源の循環利用を想定しない「線形経済（リニアエコノミー）」の反対概念として位置付けられ、資源の浪費に依存しない持続可能な経済発展に貢献します⁽¹⁾。

この循環経済を街レベルで実現しようとしているのが、「丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）」にあるビル約30棟の廃棄物を管理する三菱地所が始めた、循環型社会の実現に向けた取り組み「サーキュラーシティ丸の内」です。

この取り組みでは、「Reduce（リデュース）」、「Reuse（リユース）」、「Recycle（リサイクル）」の3Rや、シェアリング、アップサイクルを推進し、2030年までに廃棄物再利用率100%を達成し、さらに単位面積あたりの廃棄物排出量を20%削減（2019年度比）することを目指しています。

(1) 出典：一般社団法人循環経済協会ウェブサイト <https://www.ce-association.org/resource/circulareconomy/>

読者お問い合わせ先：
GOOD DESIGN Marunouchi
Tel : 03-6273-4414 E-mail : gdm@g-mark.org

掲載・取材に関するお問い合わせ先
HOW INC.
Tel : 03-5414-6405 E-mail : pressrelease@how-pr.co.jp